

みなとMIO MACH ケンチクさんぽ vol.8

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部
兵庫地域会 地域まちづくり委員会

元町my History 街は記憶とともに・・・

私は神戸で生まれ育ち、昭和57年から平成10年迄の16年間東京で暮らした以外、60年近い人生の約4分の3を神戸で暮らしてきました。阪神淡路大震災は経験していませんが、震災前の神戸の風景も記憶の片隅にしっかり残っています。平成15年からは三宮町三丁目内のビル3階で自分の事務所を構えており、平成20年に下山手通五丁目に垂水区から引越してからは、この界隈が益々身近になり日常生活を過ごす風景の一部となりました。

せっかくの機会ですので、今では商店街にないお店も含めて、私なりの思い出を少し綴ってみたいと思います。神戸に戻ってきた頃は、まだどのお店もあったと思いますが、まず幼少時によく訪れた不二家のレストラン、母がここら揃う学習教材を買って来てくれた元町宝文館、友人の出産祝いでいつも利用した子供服の定番ファミリア本店、最終閉店セールで独LAMY社の万年筆を手に入れた丸善、小学4年生の時トランペットを買ってもらったヤマハ楽器、大人になってもピアノの楽譜を時々探しに行っていました。いずれの

お店も元町商店街を語るには、私にとって欠かせない存在でしたが、この20年余で姿を消してしまいました。本当に寂しい限りです。

今でもあるお店.. 退職していったスタッフがスパゲティを食べに行きたいと言っていた珈琲店サントス。高校生の頃、悪友仲間と上階で煙草くゆらせてアーケード街を眺めていたっけ。五丁目人形材料屋さん栄屋亡きご店主は、中学高校6年間の担任松尾煌一先生。90代半ばで亡くなるまで同級生数名と連れ立ってよく遊びに行きました。目が見えなくなられた晩年もいつも我々を快く迎えてくださり、昔話を花を咲かせました。帰りに食べて行けとご馳走してくださった洋食屋さんのグリルミヤコのビーフシチューは、今では私の鉄板メニューの一つです。最近、休日に息子と二人で洋食屋QUATTROや鶏Soba座銀に並んで食べに行っています。どちらもいつも行列のできる人気店ですが、自閉症の息子はお気に入りメニューを食べると言って他へ行くことを聞き入れません。

10年ほど前、先のスタッフN君が在籍していた頃、二人でダイエットを目的に商店街の

お店が閉まり終えた頃を見計らって、夜にジョギングをしていました。片道約1.2Kmの道のりで、栄町通と中央幹線を使って八の字を描いて走ると丁度約5Km程の距離となり、いい汗をかいていました。夜9時を過ぎると五丁目以西のアーケード照明は落ち、薄暗い中を走っていました。今は膝が痛くてもう走れませんが..(苦笑)そんなこんなで私の日常は、結構元町という街と共にあります。

十代の頃は、どちらかという中途下車しても三宮界隈の繁華街をうろついていたが、元町側に暮らしてみても気づいたことがあります。元町界隈の街は、JRを超えて北に上るととても静かな住宅街があり、落ち着いた暮らしが意外と身近にあることでしょうか。兵庫県警が近いからか、表立って騒ぐ人も居ません。又地元小中学校にも繁華街を通らず通学ルートが確保できるし、子供達にも便利な街です。三宮側にはない、どちらかという家庭的な雰囲気のある食堂や喫茶店が多いのも合点がいきます。これだけの繁華街と静かな住宅街が、身近な距離で同居している街は、全国的にみても珍しいのではないかと思います。唯、商店街にかつての大きな賑いがないのは、誰もが感じている事でしょうか。



恩師の故松尾煌一先生を囲んで(栄屋)



記憶を紡いでくれる元町界隈のお店たち



70年余の歴史でも元町Storyの半分(大上靴店)

元町Another Story 人の居る風景がコミュニティを創り、「場所」が人々の記憶を紡いでいく

2000年代に入って、何が大きく変わったと言えば、誰も異論を挟む余地なくスマホの普及とネット社会の到来でしょう。ポチッとボタン一つで物が買える時代です。もはや、小売の商売をするには何か購買行為とは違った体験を積んでもらえないとお店に来てまでワザワザ品物を買って来ません。昭和世代の私たちは、ウィンドーショッピングやお店の人との会話を楽しみながら買い物をしたものですが、今は唯商品を買うだけでしたら、街に出てくる必要すらないのです。時代とは流れて後戻りをしない代物です。

私が建築を学ぶ若者達に伝えていることとして、建築は「居場所(Place)」をつくることであって、単なる「空間(Space)」だけあってもダメで、「振舞い(Play)」を伴わなければ、その存在意義を勝ち取れないと言っているのですが、まさに街での記憶もなにかしらの

体験に基づいて積み重ねられていると言えるでしょう。そこに大きなヒントがあると思います。何が生み出せるかは、皆で知恵を絞るしかないと思います。雨の日、元町商店街で傘を買ったお客さんは、商店街で飲食すればポイントがたまるとか、もうないですが、ファミリアの服を着たお子さんは、子供料金として半額にするとか、お店同士が、いや商店街全体がコラボレーションする仕掛けを今まで以上に模索すれば、神戸元町商店街は面白い、楽しい、一日に何度でも訪れる価値がある街になるのではないかと、勝手に妄想しています。間口1.2Kmの二倍の距離を持つ巨大な一つの商店と考えれば、百貨店やイオンモールに対抗できる、アマゾン・楽天では体験できない歩行者空間からなる、商空間が生まれるのではないのでしょうか。

今回のエッセーを執筆するにあたり、元町商店街連合会発行の「神戸の良さが元町に」を読ませていただきました。私の母方の祖父は、大正から戦時中まで元町通一丁目で商売をしておりました。スズラン灯設置時の店主にも「和洋洋類」と「西洋料理」の二項目で名前が掲載されていました。小麦粉配給を行っていた食糧営団理事長に戦前就いていたと今96歳になる母から伝え聞いています。私が生まれる9年前に没した祖父瀧本登一の名前を発見できて、とても嬉しかったです。昨年新装された大上靴店様は私のデザイン担当です。これも何かのご縁でしょうか。多謝



八木 康行 (やぎやすゆき)
スタジオオイトアーキテクト
代表 一級建築士 関西大学非常勤講師
(公社) 日本建築家協会フェロー会員
(公社) 日本建築家協会元兵庫地域会会長